

新宮山彦ぐるーぷ第2016回

釈迦ヶ岳・釈迦如来立像台座修復の資材荷揚げ協力依頼看板設置 と資材(砂・バラス・セメント)荷揚げ

◇実施日：2019年04月21日(日) 曇り

◇参加者：沖崎吉信、濱野兼吉、上村洋司・和美、畑林清子、
大江加代子、山川治雄、岩本信行、竹中卓治、
山口泰宏、志岐 敬、今中三恵子。 12名。

◎登山口へ持込資材量

- *砂：197袋 (一袋1.2〜1.3kg、計240kg)
- *バラス：78袋 (同じく、計100kg)
- *セメント：21袋 (同じく、計25kg)

合計 296袋 365kg

◎本日山頂までの荷揚げ量

- *砂：18袋、約24kg
- *セメント、21袋 25kg
- *バラス：9袋、約11kg
- 合計：49袋、60kg

資材を購入し、畑林さんにも協力していただいて300の袋を用意した。前日には児嶋さんのトラックを借用し、計365kgの荷を積込み、準備を整えた。

当日6時過ぎ、新宮出発組6人は、沖崎車と児嶋トラックに分乗、7時前には本宮世界遺産館Pで山川、竹中、岩本の3名が沖崎車に乗り込む。

8時には十津川旭の関電エレハウス広場で前泊の山口・志岐の2名と合流。登山口で待機中の今中さんを合わせ12名が勢揃い。早速、登山準備もそこに山川、岩本さんが荷揚げ協力願いの看板を設置、他の10名でコンテナ5箱に砂とバラスに分けて準備した。

出発前に皆さんに参加のお礼と今日の段取り、諸注意を話し、9時に太尾登山口をスタートした。同時刻に登り始めた2組の6

名の方々が「じゃあ、我々も」と、早速荷揚げにご協力下さった。



今日の手順説明



協力依頼の看板



準備した砂・バラス詰袋

昨年の大日如来坐像の修復作業以来、約一年ぶりのコースだ。昨秋の台風通過後、梶野君が一人で倒木処理や笹刈りにガンバってくれているが、登り始めてすぐからその作業のご苦労がよくわかる。山頂まで本数も多く木も太い、一人で大変だったろう、と思ひながら進む。



梶野氏設置の梯子段を登る



不動木屋登山道分岐手前の縦走尾根にて

不動木屋登山道分岐で小休憩、ここまで37〜38分、まず順調だ。次の休憩は古田の森を告げる。二日くらい前の天気予報では晴天で雨の心配が全くなし、とのことであったが昨晩の予報で曇り午後には降水確率50%に変わった。道中は曇天で今にも雨

が降り出しそう、ガスがかかり釈迦ヶ岳の姿は見られずじまいだった。

古田の森迄やってきて休憩中に梶野君から携帯メールが入り「平治宿の窓ガラス破損で、川島が一人で回収に向かった。池原まで歩く」との内容だった。皆さんに報告、木が倒れこんできたか、折れた枝が当たったか、誰か人為的にやったか、事故か、などの声があった。川島さん一人が持経く前鬼の縦走組を離れて、平治に向かい破片の掃除、窓枠を外し、それを持って池郷林道1.1km近くを歩いて池原に戻り縦走組と合流することが判った。

大型10連休の直前であり、事の重大さから「俺が一人で平治に行く、前鬼までの整備を頼む」と手を挙げられたと思う。大変なご苦労であり、ご慰労申し上げます。(この件は別紙・第2015回 南奥駆道(持経宿く太古ノ辻く前鬼)間の点検巡視と平治宿の窓ガラス破損(消火器暴発)応急処置などで詳細を記載)



古田の森で休憩



奥駆道三差路で



釈迦ヶ岳山頂に到着

その後、千丈平水場近くで3回目の休憩を取り2時間30分を要し、お昼前11時30分に釈迦ヶ岳山頂に着く。

今回セメント25kg、21袋を優先して運び上げた。厚手のナイロン袋に入れ、発泡スチロールケースに密封して使用するまでに固まらないかを試験する意味である。

砂・バラスの資材置場の看板も設置。各自が荷揚げした砂、バラスを看板下に置いた。

登山口駐車場には20台くらいの車があったが、山頂に45分滞在するも、皆さんどこに行ったのか人影はまばらであった。

昼食後の12時15分には下山を開始した。ここで先行した上村さんの姿が見えない、携帯も圏外で連絡が取れない。5〜6人が鎌を手に笹を刈りながら千丈平降りてきたが、ここにも姿がない。先に下山したのか、深仙宿へ行ったのか、彼のことから事故、トラブルは無いと思いつつ大変心配である。志岐さんから「深仙宿へ行ってみる」との申し出があり沖崎が同行し、他の9名は下山していただく事にした。

千丈平から「ほんみち」の捲き道に入り途中で出会った登山者に尋ねてみたがわからないとのこと。深仙宿手前まで来て先行の志岐さんが誰かと話しをしているのが見えた。近くまで来て、上村洋さんだ、ああ良かった！深仙宿まで降りて聞くと、釈迦ヶ岳山頂から奥駆道で深仙宿に来たようだ。皆さん大変心配しているし、別行動の報告がなかったことから苦言を申し上げた。

会行事は団体行動であり、今後は十分注意していただきたいものである。

先行下山の皆さんの後を追って午後3時過ぎに駐車場に着いた。



釈迦ヶ岳山頂の砂バラス置場



深仙宿に下る



下山時・古田の森で休憩

◎ 釈迦如来立像足下の台座石垣修復であるが、南側だけでなく西側も崩れていて、積み直しが必要な部分は広範囲にわたっている。

砂・バラスを連休中の登山者に運び上げて頂き、6月上旬に雨水を溜める段取りをした後、7月頃の梅雨明け以後に一泊2日で工事予定だが、スムーズに運ぶだろうか？

石積みの工法、砂やバラスは足りるのか、二次、三次の荷揚げが必要になるのか、等々不確定な要素が多々あるので、じっくり腰を据えてかかる必要があるそう。

尚、当日は下北山村の村長選挙投票日で、現職の南正文氏が再選された。

(記：沖崎、写真：濱野・志岐)